

○9月22日 快晴，雲なし，風波なし。

9・00 全員集合。テレメータ送信機の動作不良でその調整に手間取り，試翔が遅れた。

17・12 試射。ランチャ 4 m。角度 65°，遅延イグナイタ 70 ms。重量 9.58 kg。重心位置尖端より 645 mm。全長 1068 mm。ランチャ内に電気標的を装

備，ランチャ内の速度変化を求む。発煙良好。試翔成功。

○9月23日 一時雨。

9・00 全員集合。

14・37 試射。ランチャ 4 m。角度 65°，遅延イグナイタ 70 ms。重量 9.5 kg。重心位置尖端より 649 mm。全長 1037 mm。ランチャ内に電気標的を装備し，ランチャ内の速度を測定。試翔成功。

引き続き糸川教授総指揮によりペビー特S型の試翔を行った。

○9月24日

高木教授の挨拶あり。器材の撤収を行い解散。

3. 時間計画

ペビーTの試翔は実験日の午後，一回行う予定であった。実験日における各作業の標準スケジュールは右記のようなものが用いられた。

午前 テレメータ送信機，トランスデューサ等の調整，整備。両者かみ合せて動作状態のチェック，アンテナ組付などを行う。また，受信設備，ロケット，ランチャ等

の整備も行う。

実際の時間経過は，ほぼこのスケジュールで大異なく実験が行われた。ただし 22 日のように，テレメータ送信機の整備に時間が著るしく延び，予定より 2 時間以上遅れたこともあった。

時刻	テレメータ班	トランスデューサ班	ロケットおよびランチャ班	その他
12・30	組立	組立	発煙剤，イグナイタ装填	時報
13・00				
13・10	動作 check			
13・30	本組立 アンテナ固着	本組立	本組立	
13・45			重量，重心位置測定	
13・50	送信機動作試験			
13・55			ランチャに挿入	
14・10			電気標的の取付	
14・15	発射信号動作 check		イグナイタ導通，抵抗試験 イグナイタ電圧測定	
14・35			イグナイタ配線	B 旗掲揚
14・44			発煙剤パイプ切断	
14・45	テレメータ送信機 スイッチ投入			花火打上げ
14・50				発射
14・51				

時間スケジュールはあくまで予定であって，多少の遅延は焦らずに，充分各部の点検に手を尽すべきことが，19 日の飛翔失敗，21 日の送信機故障などの苦い経験から痛感された。(1955. 12. 23)

次号予告 (3月号)

研究解説

- 南方定点観測船上における波浪の観測 ..... 田宮 真
- 塩素酸諸塩の製造と応用 ..... 野崎 弘
- 塑性加工製品の矯正 ..... 藤代 光雄
- 日比野文雄

研究速報

- 硼酸イオンの陰イオン交換について ..... 山辺 武郎
- 菊池 真一
- 回転極による現象液の酸化還元電位 ..... 原 浩
- 吉田 弘美
- 酢酸ビニル四塩化炭素のテロメリゼーション ..... 浅原 照三
- 高木 行雄
- sec-Butanol—水—iso-Octane 系の相互溶解度曲線と気液平衡 ..... 山本 寛
- 丸山 隆
- 材料の破断特性と成形性 ..... 山田 嘉昭
- 計数型サーボ機構の一試案 ..... 大島 康次郎
- 富成 襄
- 逆応答プロセスの制御 ..... J.G.Ziegler
- 高橋 安人

生産技術研究所報告第5巻第7号刊行

石原智男著(英文)「A Study of Hydraulic Torque Converters (流体トルクコンバータの研究)」

流体を媒体として動力伝達をおこなうトルクコンバータは，自動変速装置として最近広く利用されるようになってきた。本論文は，このトルクコンバータの性能を流体力学的な見地から研究したもので，基準点条件の採用によって系統的な性能計算法を確立し，形式の相異による特性変化を数量的に明らかにしている。また理論の確認のための実験研究を行っており，羽根車内の流れのエネルギー損失の実験係数がレイノルズ数のかん数として表わされている。これによって複雑な形状のトルクコンバータの設計が比較的容易に，しかも合理的におこなえるようになった。

正誤表 (1月号)

頁	段	行	種別	正	誤
表 2		下 2	目次	ラッピング機械	ラッピング機構
2	左	4	本文	鋼	銅
7	右	24	"	岩崎工業所	岩崎計器
"	"	25	"	山口盛男	山口隆二
18	"	"	図	第2図	第3図
"	"	"	"	第3図	第2図
19	"	下 17	本文	値に 4 を	値に 1 を
"	"	下 13	"	number	number
23	左	4	"	E (π/2, k)	E) π/2, k)
"	右	下 7	"	するのが	するが